

あなたの心にジャストミート 7月14日メッセージ  
いのちの運動(ルカ 6:6-11)

エペソ 2:1 に、人は罪過と罪で死んでいと書いてあるとおり、人は靈的には死んだ存在です。いくら知識がありIQが高くて、この靈的事実を知らなければ、人間の実態に無知になり人生に迷うようになります。人間は、神様によって、神のかたちとして創造された、たましいのある靈的存在です。神様に祝福されて生きるべき存在ですが、悪魔にだまされて罪を犯して神様から離れてしまいました。そして、悪魔の奴隷となり、地獄の運命の中を生きています。しかし、人間はそのことを知らず、自分、肉、この世という罠の中で、シャーマニズム、イデオロギーや占いなどの偶像に仕える枠に捕らえられ、身分は悪魔の子どもと言われる状態で、人生そのものが壊れているまま生きています。世の中の人生だけではなく、永遠に滅びようになり、それが子孫代々まで受け継がれるのです。これが人間の実態で、すべての人がその状態で、神様からの栄誉を受けることはできません。根本的に何によっても助けられない不可能な状態なのです。

1. 人間の実態を知らないと根本的に人を助けられない。

- 1) 良かれと思いやれども
  - 2) 法律、ルール優先
  - 3) 合格か不合格で判断するのですが、それは限界があります。
  - 4) 罪の代価、懲らしめられている、災い
  - 5) 間違った答え-宗教や偶像、占い、イデオロギー、倫理、道徳
- そこに道があるかのように生きますが、靈的事実に基づく人間の実態を知らないなら、教会に通っているとしても宗教でしかなく、いのちの力は期待できません。

今日の聖書に出て来る律法学者とパリサイ人は、安息日に人を治すかどうかでイエス様を訴えようとしていました。イエス様は彼らに向かって、安息日にするのは、善なのか悪なのかと問われますが、善というのは、いのちを救うことです。靈的事実に基づき人間の実態が分からなければ、その分別はできません。悪魔が光の天使に変装して惑わすので、聖書を読んでいても、分からなくなり、イエス様を殺そうと考えるほど恐ろしい結果になるのです。何よりも靈的事実に基づいて、人間の実態を知ることが大切です。

2. 人間の実態がわかればいのちを持って根本を生かせる。

- 1) すべてを超越していのちだけが答えです。
  - 2) 創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14  
いのちとは、悪魔の奴隷から解放するために、悪魔の頭を踏み砕くこと、罪によることなので罪が贖われること、神様から離れた結果なので、いのちの根源の神様に会いっしょになることです。
- 神様が約束してくださった悪魔のしわざを打ちこわす女の子孫がいのち、キリストです。あがないの犠牲のいけにえとなって罪をきよめてくださる約束どおりに来て、罪をきよめてくださるキリストです。神様ご自身がこの世に来てくださり、神様が人とともにいるようになる約束、キリストです。キリストの中にいのちがあります。他にはありません。そのキリストがイエス様です。
- 3) マタイ 16:16、ヨハネ 19:30、ヨハネ 3:8  
イエス様はキリストで、十字架でいのちのためのすべてを完了されました。悪魔のしわざを打ちこわすことを完了されたのです。

- 4) ヨハネ 1:12、ローマ 10:13、14  
滅びるしかない人間に、神様が、すべて完了されたイエス様を信じて受け入れることによって、いのちが宿るようにしてくださいました。死と罪の原理から、いのちの御霊の原理によって解放して下さり、イエスを主と認め、御名を呼び求めると救われるようにしてくださいました。いのちの福音、正しい福音を聞くことによって、聖霊の働きによって信仰が与えられ、自分のキリストとして信じるようになり、信じて受け入れることによっていのちが与えられるのです。
- 5) 使徒 3:6、ヨハネ 8:11  
ペテロは美しの門の前の足の不自由な人に、いのちの秘密を伝えました。その人の問題は神様を離れ、悪魔の奴隷で、地獄の運命であるところに国家、家系、靈的な影響から心に傷を持っていて、そのようになったということを知って、キリスト・イエスの御名をあげようと言ったのです。ペテロはいのちのイエス・キリストが宿っていることを感謝して、確信していました。また、姦淫の女に、イエス様はいのちを与えられたのです。靈的事実

を正しく知り、人間の実態を知っていのちの運動をすることは、ルールや法則を超越するようになります。

6) 善と悪の基準-いのちか滅びか  
聖書の基準は、いのちか滅びか、つまりキリストかそうではないかです。いのちより優先することがあってはなりません。世のルールに縛られることなく、自由になります。

私は、人間の実態を知っているのか、認めているのかを素直に問いかけてみましょう！他の何か、世のすごいものなどで一ミリも助けになれない実態、キリストでなければならぬ実態！これを知らずに教会生活をする、パリサイ人になり、靈的問題はそのままになります。自分の心の中で戦いましょう！いのちか、違う法則か！信者は答えのないままさまよっているたましいにいのちのキリストを伝える(みことば運動)ために現場に派遣されている教会ですから、現場を見ながら講壇から答えを得て、導きを祈ると、すべては加えて与えられることを体験できます。

1 部-ルカ 6:6-11 いのちの運動

なるほど/人間の実態を知らないと根本的に人を助けられないし、人間の実態がわかればいのちを持って人を根本から生かせるようになる。

ならば/自分は、絶対キリストじゃなければいけない人間の実態を知っているのか、認めているのかを点検しよう！これから心の中でいのちなのか他の何かを問う戦いをしよう！答えがないままさまよっている魂にいのちのキリストを伝えるために現場に派遣されている教会という自覚を持とう！

2 部-マルコ 7:14-23 正しい問題提起

なるほど/表に現れる問題ばかりにこだわる問題提起を改善して、人の内側にある絶対解決不可能は靈的問題を問題と見ることで、唯一かつ正確な答えを与えることが出来る。

ならば/自分は何を問題にしているのかを問いかけて見よう！救われるべき魂との出会いがない理由を考えてみよう！何が問題なのかを知らずに迷っている現場の人々に正確な答えを与えることを課題に祈ろう！